

日本訪問期間の研究課題と滞在記

嚴曼華
(北京師範大学)



日本における「伝説圏」の概念の生成と発展を理解するため、神奈川大学の援助を受け、2023年11月2日から11月21日にかけて20日間日本を訪問した。日本における「伝説圏」の概念の生成と発展について文献を整理し、現地でのフィールドワークを行った。

11月3日午前、筆者は周星先生を訪ね、本研究の大きな方向性を決定した。まずは柳田國男の『伝説』の原文を参考に「伝説圏」の定義を整理し、中国語訳との相違点を比較した。次に、「伝説圏」と「方言圏論」の考え方における類似性から、「圏論」の生成と発展及び伝説圏との関係について重点的に着目した。さらに、博物館における伝説の空間的展示と『口承文芸研究』誌の過去40年における目録を結び付け、民間文学の空間的転回について検討した。



写真2 大学の図書館で資料を探す。写真はみなとみらいキャンパスの図書館（筆者／撮影）



写真1 ご指導くださった周星先生、事務の成田紅音さんと撮影（余瑋氏／撮影）

11月4日から11月16日まで、主に神奈川大学図書館、神奈川大学日本常民文化研究所及び非文字資料研究センターにて資料の調査を行った。柳田國男の『伝説』、安室知の『日本民俗分布論』、『口承文芸研究』第5号～第43号、『日本民俗学会報』第9号、60号等の資料を調べ、関連文献における「圏論」、「伝説」及び「伝説圏」等の研究について整理をした。

11月11日、周星先生に伴われ国立歴史民俗博物館にて、「河童」伝説に関する立体的な展示を見学した。展示の中では歴代の歴史文献における河童伝説の記載だけでなく、河童の呼び名の分布図及びこれまでの河童のイメージを表す絵図や像が展示されていた。また、河童にまつわるお守り、詫び状等の風習や信仰も紹介されており、文字、言語、図像、信仰儀式など多面的なメディアの視点から河童伝説の空間的情景が展示されていた。



写真3 国立歴史民俗博物館を見学。図は「河童」の呼称分布図（筆者／撮影）



11月20日に研究結果の報告を行った。テーマは「伝説圏概念の生成と適用性の分析——民間文学の空間的転回について」であり、主に伝説圏概念の生成と発展、伝説圏概念の中国における応用、日本の口承文学の転回及び民間文学の空間的転回の再考という三つの構成に分けて報告を行い、先生方から貴重な意見を頂いた。

今回の訪問と交流で、日本における「伝説圏」の概念の生成過程を明らかにすることができ、また先生や学生との交流を通じて中日の民俗学研究における類似点と相違点を理解する事ができた。ご指導、ご配慮くださった周星先生、成田紅音さん、サポートくださった余瑋さんとホビトさんに感謝したい。

豊かな学術饗宴—日本における日中 ドラゴンボート文化比較研究で得たこと

李瑜恒
(中山大学)



2024年1月9日に、私は広州からやって来て神奈川大学に到着し、20日間の訪問研究を開始しました。私の中山大学における博士課程の研究対象はドラゴンボートの習俗で、対象とする地域は中国広東省の珠江デルタです。ドラゴンボートレースは長い歴史を持ち、我が国南部の多くの地域で行われており、国の各階級別の代表的非物質文化遺産の保護リストにも名を連ね、高い研究価値を有する民俗的スポーツ行事です。日本にも同様にドラゴンボートレースの歴史があり、地域ごとの文化や特色があるということが、私の研究への関心を刺激しました。神奈川大学に来る前に、私は以下の課題について検討する計画を立てました。

1. 日本のドラゴンボートレースの歴史的起源はどのようなものか？
2. 日本のドラゴンボートレースにはどのような伝統的儀式があるか？
3. 日本のドラゴンボートの形状はどのようなものか？
4. 日本のドラゴンボートレースの現代への継承はどのような状況か？
5. 日本のドラゴンボートレースと中国のドラゴンボートレースの類似点と相違点は何か？

幸いなことに、私の指導教員の新垣夢乃先生や非文学資料研究センターの成田紅音さん、その他の歴史民俗資料学研究科の先生方には大いに助けていただきました。新垣先生は私に沖縄の民俗に関する本を提供してくださり、横浜のボートレース協会や博物館の担当者と連絡をとるための手助けをしてくれました。成田さんは多くの書籍や資料を探すのを手伝ってくれました。また、成田さんは日本滞在中の私の生活上の多くの問題を解決してくれ、その熱心なサポートのおかげで異国で生活する上での様々な不安が解消されました。

神奈川大学には非常に豊富で貴重な民俗学資料があり、私は神奈川大学での20日間に、非文字資料研究センター、歴史民俗資料学研究科、日本常民文化研究所、図書館に行き、自分にとって必要な多くの参考文献を見つけることができました。『球陽』は日本のドラゴンボート

レースの歴史的起源や伝説が記載された非常に重要な歴史文献です。『沖縄船漕ぎ祭祀の民族学的研究』という本には、沖縄各地でのドラゴンボートの活動が記録されています。この本からは、例えば糸満市のハーレーボートレースは地元の漁船から発展し、レース当日は祈禱の儀式を行ったり、ハーレーボートを故意に転覆させたりする、といった流れについて、あるいは、西表島の祖納で行われるドラゴンボートレースは、地元の田植え儀式と組み合わせられ、五穀豊穡を祈願する目的で行われることなど、地域の特色あるボートレース活動について知ることができました。この他にも沖縄の歴史や民俗に関する別の資料も見つかり、沖縄のドラゴンボートを理解するのに大変役立ちました。

また、横浜での現地調査も非常に有意義なものでした。新垣先生のご協力と推薦により、チューターの宋犀子さんと私は横浜中華街にあるローズホテル横浜を訪問しました。台湾人の初代オーナーを持つこのホテルは、古い歴史を有し、2013年からは横浜市のドラゴンボートレース大会にメンバーを組んで参加しています。私たちを受け入れてくれたスタッフは、チームに参加して水上での競技をしたことがなくても、陸上でドラゴンボートレ



写真1 日本での研究の発表会
場所：神奈川大学非文字資料研究センター
出典：神奈川大学非文字資料研究センター提供